

先生侍史

大垣市民病院 整形外科 主治医

謹啓

日ごろは お世話になりありがとうございます。さて、近年医療連携の重要性が強調されており、大腿骨頸部骨折の治療については早期に積極的に適切なリハビリ等を行うことが患者のADLの獲得に重要であると考えられております。すでに多くの大腿骨頸部骨折患者の特に手術後リハビリ等につきまして地域連携による共同診療を行ってきました。

この度、その機能をより明確にし患者サービス・診療レベルの向上を目的に改めて地域連携クリニカルパスを作成いたしました。つきましては下記患者様において、今後の大腿骨頸部骨折診療を、先生に以下運用要綱に基づき今後の診療をお願いしたいと思いますので、ぜひ趣旨をご理解いただきました上ご協力お願い申し上げます。

連携パスに関してご不明な点がございましたら、当科にお問い合わせいただければ幸甚に存じます

謹白

記

患者氏名	年齢	性別
患者 ID		

以上

大腿骨頸部骨折地域連携パス 運用要項

【目的】

- ① 地域における医療機関・老健施設の機能分化を明らかにし、多くの大腿骨頸部骨折患者に良質の医療を提供できるシステムを構築する。
- ② 連携により患者の一貫した診療計画と患者情報の共有し、積極的に術後リハビリテーションを行いできるだけ転倒前の ADL の獲得を目指すことである。

【対象】

- ① 大腿骨頸部・転子部（転子下を含む）骨折患者
- ② 手術治療を行ない比較的安定した患者で引き続きリハビリ等を必要とする患者

【基本原則】

- ① パスへの登録症例は大垣市民病院側で決定する。
- ② パス用紙は患者用 1 枚 医療者用 1 枚とする。
- ③ 当パスは当院から紹介先へ行く「すごろく型」パスであり以下のような特別の事情が生じない限り原則として 1 回で完了とする
- ④ 紹介先で **XP** 等治癒過程の評価ができない場合は当院外来にて行い、それに応じたりハビリのアドバイスを行う。
- ⑤ 骨粗鬆症についての評価は、ある程度リハビリが落ち着き次第適宜行い、紹介先で評価できない場合には当院外来にても行い必要に応じて薬物治療を行う。
- ⑥ 以下の場合には必要に応じて当院主治医に紹介する。（必要に応じて地域連携枠利用）
 - ・ 股関節痛の悪化
 - ・ 股関節周囲の腫脹発赤、創部の感染徴候
 - ・ 転倒

- ・その他紹介先が必要と判断したとき

⑦ 地域連携計画書の取り扱いについて

- ・大垣市民病院から連携先へ転院・入所する時に、本計画書（地域連携クリニカルパスフォルダー）と診療情報提供書を患者が持っていく。
- ・連携先を退院・退所したときに、本計画書写しと診療情報提供書が大垣市民病院へ送付する。
また患者が大垣市民病院を再診する場合は、本計画書と診療情報提供書を持ってきていただく。
- ・連携病院を退院し、かかりつけ医に繋いだ時点でパスは終了とする。